

# JUNKAN

循環研通信

循環型社会研究会 Workers Club for Eco-harmonic Renewable Society

循環型社会研究会(略称:循環研)は、次世代に継承すべき自然生態系と調和した循環型社会のあり方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践およびそのための交流を行うことを目的に活動する市民団体です。

単に、資源のリサイクルや物質循環に注目するだけでなく、自然生態系と調和した未来世代にとっても維持更新が可能な仕組みを備えた具体的な地域社会づくりがわれわれのテーマです。

## 循環型社会研究会設立総会開催

日時：2001年5月16日(水) 18:30～20:30

会場：中央区立産業会館

循環型社会研究会の設立総会が、5月16日(水)に中央区立産業会館で開催されました。27名(うち3名は委任状)の出席のもと、NPO法人格取得へ向けての新たな歩みがスタートしました。

開会挨拶では山口氏が、バルディーズ研究会の分科会として循環型社会研究会が発足して以来、高杉氏が代表として研究会を牽引してきた経緯などを紹介。

これを受けて高杉氏は、これまでの循環型社会研究会がきわめて個人的な枠組みで運営されてきたが、今後広く活動していくうえでは新たな展開が必要であり、循環型社会の実現を目指して活動・研究を進めるという目的をもってNPOを立ち上げるという総会開催の背景を説明しました。

今後の活動計画については田中氏が、研究会の活動の中心になるセミナー(年4回)とフィールドワーク(年2回)とともに、会員同士の自主的な活動としてのワークショップについても紹介。各ワークショップについては、6人のワークショップリーダーから具体的な構想が説明されました。

続いて、事務局から会則案と収支計画案の説明があり、二、三の質疑応答の後、全会一致で採択。最後に、役員を選任が行われ、下記の理事及び監事の就任が、全会一致で了承されました。

理事：高杉晋吾、田中宏二郎、下鳥弘、山口民雄、三沢和弘、  
及川陽子、久米谷弘光

監事：畑健二郎



### 目次:

循環型社会研究会設立総会開催	1
循環型社会を緊急課題とするのはなぜか 高杉晋吾氏	2
循環研セミナー報告	4
化学物質汚染なき地域の創造 尾竹一男氏・広田しのぶ氏	
活動予定とWS案内	8

## 循環型社会を緊急課題とするのはなぜか

—循環型社会研究会設立総会挨拶より— 高杉晋吾



**大**量生産型社会から循環型社会へというスローガンは、今では環境を論じる方々の枕詞になってしまっている。だが私が10年前（1991年）に岩波新書の「産業廃棄物」で循環型工業団地を紹介し、循環型社会という提起をした当時はまったく初めての実態提起であった。

そして1992年に「産業エコロジー革命」（日経新聞社）である程度、動脈産業と静脈産業の循環システムの具体的事例を紹介することができた。それが大量生産型社会の破綻がどのような物の流れの矛盾から出発しているのかということと循環型社会の物の流れの潜在的な姿を実態として描き出すことの出発点であった。

1993年、NHKブックスで「環境国家への挑戦=循環型社会を目指して」で循環型社会というコンセプトをその前書きである程度まとめて描き出した。そして「今はまだ理念の段階であることを重々承知の上で社会的片鱗を探し、その理念に近い社会システムの萌芽や潜在的可能性はないかと各地を探し求めて歩いた」と書いた。

これとほぼ同時並行的にバルディーズ研究

会における循環型社会研究会活動が始まった。

こうして次第に循環型モデルも実体化されていった。工業における循環型モデルのある程度煮詰まったモデルの紹介として「北九州エコタウンを見に行く」を1999年にダイヤモンド社から出した。それは生産から廃棄にいたる循環モデルの紹介が主なテーマであるが、わたしはもう一つ官営八幡製鐵からの日本近代化の歴史の総括を重要なテーマとした。

そこには明治維新以来の日本がたどってきた徹底した重工業中心の道程があった。どの先進国も大量生産型の道を産業革命以来たどってきたであろうが、北九州には大量生産型社会としての日本の歩みが凝縮している。この大量生産型産業としての日鉄の終わり、民主化の始まりを全身で受け止めた経営者としての三鬼社長を紹介した。

そして、私はこの5月31日「循環型社会モデルがここにある - 環境時代を選択する勇者の条件」という本をダイヤモンド社から出す。

ここでは、大量生産型社会で失われた都市と農山村、工業と農林漁業のバランスの喪失と循環型社会におけるバランスの回復、政官財の消費者無視によってバランスを喪失した政治経済から消費者住民が参加しバランスを回復した政官財民をテーマにして具体的な姿を描いている。

現状は大量生産型社会の中で科学技術の暴走と、消費経済の暴走、人口の爆発で地球の限界に経済活動が激突した。

われわれの経済活動は地球の生態系におんぶして行なわれている。しかし、地球の生態系が受容可能な能力をカナダのブリ



テイシコロンビア大学のリー教授のグループが計測した結果、すでに1993年の段階で、人間の経済活動はこの地球の再生処理能力を33%もオーバーして行なわれている、という結論が出た。

この原因は、世界60億人の人口中20%=12億の先進国が、世界の資源エネルギーの80%を消費し、80%=48億人の発展途上国が僅か20%の資源エネルギーを使っている現実から出発している。

この結果、異常気象など実に様々な終末的現象が地球を覆っている。いちいち申し上げないが、この現象を克服することが可能なのか。おそらくは不可能であろう。

だが、かなわぬまでも、われわれは子孫に環境破壊のつけをまわすことを避けなければならない。そのために何をしなければならないか。

われわれの大量生産型社会構造を循環型社会構造に変えていかなければならない。そして循環型社会を実現する思想と手法としてエコデザインという方法がある。

エコデザインとは思想・手法・段取り・当面する課題を明らかにする環境総合戦略である。エコデザインの視点はまだ混沌としているが、たとえば次のように整理することができる。

- 思想
  - 先進国と途上国の資源エネルギー投入量の不平等を解消するための「ファクター10」の思想
- 手法
  - LCA、エコマテリアル
  - 手順段取り
  - 住民参加による合意システム
  - 当面の中心課題
  - グリーン購入と公共事業のグリーン化

こうした循環型社会実現のためのエコデザインに関する仮説をもって、現場主義を活動の基本に据え、NPO法人を確立していきたい。

〔私たちの活動の場としての具体的モデル〕

天竜水系企業経営と環境（「循環型社会モデルがここにある 環境時代を選択する勇者の条件」）

イ）天竜横断の天竜浄化作戦、天竜川健康診断・水質検査

ロ）阿智村・社会環境アセスメント委員会での経験

北九州エコタウンを見に行く（工業における循環システムモデル）

循環型社会モデルがここにある（工業、農業、地域社会のバランスある発展とエコデザイン）

春夏秋冬



「六月は昔の言い方でなんだっけ」「うーん」と私。夫婦仲良く、指折り数える。睦月、如月、弥生……。六つの指を折って、そろって「水無月だ」。でも、今頃は梅雨時なのに水が無いというのは変ね」と家内。そこで、塵に汚れた辞書を引っ張り出した。「陰暦六月の異称。暑さで水が涸れる月の意。夏の季語」とある。

そして、7月の文月は、俳句では秋の

季語になってしまふ。水無月や文月を俳句で使おうとすると季節感が湧かない。この時期は、雨に濡れたシヨウブ、アジサイが似合うからだ。葛飾の水元公園では菖蒲祭りが開催されている。傘をさして、ゆったりと花の観賞をする人が多い。しっとりとした緑、淡い色彩に大人の静寂さがある。華麗で賑やかな花見とは違った、この雰囲気での「一杯！」もまたオツなものである。

雨降りて傘も菖蒲と競い咲き

風月  
(M)

## 化学物質汚染なき地域の創造

### 化学物質過敏症とはどのような病気か？

CS（化学物質過敏症）ネットワーク運営委員  
広田 しのぶ氏

米国では10人に1人がCS潜在患者

- ・5年前に娘さんが化学物質過敏症になったことがきっかけで、この問題にとりくむようになり、CSネットを立ち上げた。現在約500人が参加しており8割は建築関係の仕事に関連する人が占めている。生協の中に事務局を置いており、当初のメンバーは中年が多かったが今は20～30歳代が多くなっている。
  - ・CS患者は医薬品を扱う医療関係者に多く、次いで塗装関係の従事者や建築関係者となっている。一説によると国民の39.4%はアレルギー患者と言われている。化学物質過敏症はアレルギーとは密接な関係があるとされているが、現代医学ではあまり理解されていないため病気としての認知がされていない。このためこの医学研究をするための費用も十分ではない。しかし、米国では10人に1人はCS潜在患者と言われている。
  - ・CSの深刻さに早く気がついた北里大学病院の宮田先生は、現在起こっている、不登校、多動児、学習障害児、自殺、キレる子供、弱者を虐待する親などの問題の背景に化学物質が関係している可能性が高いと指摘しており、化学物質が特定できないまま国民の心身がぼろぼろになってきていると憂慮している。
  - ・CSにかかると、頭頂部が締め付けられる、考えがまとまらない、本を読んでも字（行）が追えない、耳鳴りが起こる、音に過敏になる、臭いに過敏になるなど、様々な症状が出てくる。北海道で見た光景では、防水してあるビニールの傘やカーペットに有機リン酸が入っているために雨が降っても傘もささず、家にも入れない患者がいた。
- 原因は一つではなく複合汚染だ
- ・化学物質の入った食物を摂ったことによ

り、酵素が破壊され自己制御が利かなくなり、臭いを通じて脳が直接影響を受ける可能性がある。食品は化学物質の入った輸入食料によって蓄積されていく危険性がある。トイレに置かれたパラジクロールベンゼン（これは学校、役場などの公共施設にも置かれている）によってCS患者はトイレにも入れない状態となる。また、住宅に使用されるトリクロロエチレンはシックハウス症候群を引き起こしている。新築住宅が危険だから中古住宅なら安全かと言っても、先住者がバルサンを使っていたり、先住者の生活臭がCSを誘引することもある。原因は一つでなく、空気、食物、家具、建物などあらゆるところに潜んでいるため、今後とも想像もつかないことが起こる可能性がある。

・このように、社会を形成する人間がおかしくなってきたり、人間が健康な社会を作らないと、何のための社会か分からなくなってきたり。特に子供たちが危険である。次世代の健康な社会を作るために皆でこの問題に取り組みないといけない。

### 中伊豆脱化学物質コミュニティの試み

尾竹建築研究所代表  
尾竹 一男氏

#### 化学物質過敏症の実態

北里大学病院の宮田先生によると、戦後、人の免疫力では対応しきれないような環境を作り上げてしまった。また、CSは発症の形態がアレルギー疾患と似ているが、厳密には異なりアレルギーと中毒の中間のようなものとのこと。現状では最大の原因は住宅などに使われる建築材料で、北里大学病院の化学物質過敏症外来を訪れる患者は年間150人から300人で、60～70%は新築や改装したばかりの家に住んでいる人とのことである。

CSの発症場所は今は住宅が多いが、最初はシックオフィスが現れた。その背景には、15、6



年前に省資源・省エネルギーが重要なテーマとなり十分な知識も持たないまま密閉空間を作った結果、外気との接触のないところで働くキーパンチャーにCSが出てきた。その後シックハウス症候群が増えてきて特に新築住宅では、一時的に大量のCS原因物質に曝されるために、それがきっかけになることが多い。病院、美容院、学校が3大発症場所である。

・今の子どもたちは色々な化学物質を蓄積しているため、子供自身が化学物質を出しており教室が発症源となってしまう。人の死体は通常は老人の方が腐りが遅いのだが、今や若い人の方が小さい時から化学物質の摂取が多いために防腐効果が出来、腐りが遅い状態になっている。

・建設、労働、通産の色々な省庁をまたぐ問題でもあり、なかなか総合的な取り組みが出来ないのが実態で、病気としての認定が出来ない状況にある。それでもやっと厚生省は今年度を含む3ヵ年計画による研究班を4つ作り研究をスタートさせた。空気を含めた総合的な問題としての取り組みが必要な問題である。

CS 対処の条件を満たす中伊豆

・CSへの対処としては、次の二つの観点から考える必要がある。

予防：特に過敏症にならないように建築を

制限する

治療：治療する場として安心して空気の吸える場所を整備する

・CS患者は通常の家に住めない状態にあり、空気のよいところで栄養のある食べ物を採る必要がある。住宅のリフォームの相談も受けるが、治療条件を満たすことは難しいので9割は止めなさいと話をせざるを得ない状況である。自然の素材を使えばよいとも考えられるが、シヤムクの木も油が出てこれが空中のNOxと反応して新しい化学物質を作り出しCS患者はこれに反応してしまう。スギ、ヒノキの針葉樹も駄目だ。自然の石の御影石も微量だが放射線を出し、これに反応する患者もいる。患者の中には、スプリング付きのベッドには寝られない、蛍光灯の下には居られない等、人によって様々な条件があり、患者毎に場所、物の条件を考えないといけない。

・治療場所の条件を満たすところとして千葉周辺の海岸を検討したが、海岸寄りの海水には生活排水が流れ込んでいる、船の重油や船底の塗料が溶けている等のために、それが海風に乗ってきて患者にとってはふさわしくない環境になってしまう。一方、田園地域は農薬が散布されており、特に空中散布が行なわれた場合には自動車のフロントガラスに薬がべったりと付くほどである。箱根、丹沢にも東名高速の汚染物質が届いてしまう。このようにCS患者のための療養場所候補は首都圏にはほとんど見当たらないのが現実である。

・こうした中で中伊豆が有力候補として挙がってきた。ここはわさびの産地であり、わさびは水がきれい温度が一定であることが必要で、車が入ってくることを嫌う。それだけにCS患者の治療を行なう場所の条件を満たす面が多い。とりあえずは、地元の協力で5000坪の土地をかなりの低額で提供してもらうことが出来た。

(6 ページに続く)

化学物質過敏症(CS)患者は転地療法によって回復できることが分かっている。北海道旭川市では行政主導による「医療休養基地構想」の試みが始まり、今年1月末に化学物質過敏症治療支援センターがオープンした。このような施設は直接的には地元は何の利益も生み出さないが、農業や林業の活性化や再生につながる点でメリットがあると考えている。つまり、旭川の場合だと「化学物質過敏症患者でも使える家具」としてのブランド力を高められる。同じ発想で、鳥取でもセンター構想を具体化しようとしている。

・しかし、都市のCS患者にとっては北海道に行くことは至難なことで、化学物質に満ちた空港、飛行機を使えないのが実態であり、この点からも首都圏近郊で治療の場を設ける必要性があると考え、中伊豆でNPO「化学物質過敏症支援センター」を中心に、患者の会や市民団体、医師、研究者、建築家など様々な団体や個人が協力して脱化学物質コミュニティの建設を始めようとしている。しかし、土地は手に入れたがお金がないのが現実で、諸施設は健康志向のハウスメーカーの賛同のもとに素材提供をしてもらいたいと希望している。

この後、スライドを使ってCS患者のための住宅作りの例が紹介がされた

母・娘とも電磁波過敏症の例。蛍光灯に反応するので全て白熱灯に変え、壁の中の配線をとってコンセントもはずした住宅にリフォームし、近くの電柱のトランスも移動した。床については様々な材料を検証した結果、防虫・防霉処理をしていない北海道産のイタヤカエデのフローリング材を釘止めした。

高校3年生の娘さんがCSにかかり、視力にかなりの障害が出た例。もともと機密性の高い住宅であった上に、使われている建材がアスベストを含む新建材だらけで、これが要因



と考えられる。内装材の検証を本人とともに行った結果、木材がほとんど駄目なことが分かり、床・壁・天井ともコンクリートがむき出しの状態になるまで仕上げ材等を取り除き、原料をよく吟味した漆喰をひび割れ覚悟で25mm厚で塗った。また、平滑な面では光の反射による反応があるため模様状の凸凹をつけ、床は素焼きのタイルを砂で固めて置くだけとした。

北海道旭川の石油ストーブが駄目なため小屋に入ることも出来ない例。ここでは地元の「木の城たいせつ社」が化学物質の排出に関して厚生省の基準よりもかなり低い濃度の小屋を本年2月に完成させている。

建設省は自身の官舎にはシロアリ駆除剤を使用していないのに、薬剤関係の許認可は通産省の領分であることもあり、CSの問題については全くリードできていない。官僚はホルマリンを使わない合板を作るという発想があっても、「合板を使わないようにする」という発想が出てこない。官僚は個人的には理解を示すが組織としては動けないのが実態で、結局政治がリードしないとことが進まない。この点で「政治の力のなさを痛感する」と言うことで講演が終わった。

## セミナー出席者からの発言

### 元CS患者の長倉さん

・CS患者になったのは5年前で、それ以前はアレルギーもなくハードな仕事をこなしていた。しかし仕事をやめて半年後に発症。ある時から倦怠感がひどくなり、3ヵ月後にセキが出てきた。喘息と診断されたが納得がいかず投薬は断った。どこの病院に行っても納得ある説明が得られず、母親が新築の家に移ってから身体に異常を感じてきて始めて化学物質が原因であることに気がついた。

・思い返せば、仕事をしていた時に引越しが多く、8割が新築住宅であり、また展示会関係の仕事であったので塗料などに接する機会も多かった。

・アルコールに対して過敏な反応が起こり、近くで人がビールを飲むだけでセキが出るし、ライム入りのシャーベットを食すると胸が苦しくなるほどであった。自分の場合はセキが出るということでも他人にも分かる症状であったことは救いで、この原因を避けるようにしてきて次第に回復してきた。

・こういう病気があるということを世の中の人に理解してもらうことが重要で、CSはいつ誰がなるか分からないことを認識する必要がある。

### エコハウス設計者の相根さん

・本日の講演には全く同じ心境にある。患者の個別対応にならざるを得ず、徐々に成長する家作りをしないと駄目。

・CSは子供や女性に症例が多く、この点、男性はもっと感性を高める必要がある。

・中伊豆のプランは注目しており、これが起爆剤になることを望む。

・相根氏が推進してきた日野のプロジェクトは、CSの予防を狙ったものに相当するもので、色々な場所を探した結果行き着いたところである。木材使用に関しては患者にもいろいろ確認してもらった。

### バイオディーゼル燃料開発者の早藤さん

・今の世の中は石油製品が主体で95%は化学物質が占めている。そこで石油製品をなくすことを意図してバイオディーゼル燃料の開発に取り組んでいる。

・当初CO<sub>2</sub>問題を意識した研究開発を行っていたが、石油使用が世界平均で5ℓ/人・日(米国人では26ℓ、日本は12ℓ)という実態で、これが世界的に進んでいけば大変なことになるとの認識で環境悪化を防止する策としてバイオディーゼルの開発ということに思い至った。

・エネルギー問題に関しては風力や太陽エネルギー利用も考えられるが、インフラ形成のために金がかかり、この点でバイオディーゼルは既存のインフラが使える。

・現状ではコスト高になっているが、技術革新が進めばコストダウンは可能である。しかし技術開発資金がないのが実態でいろいろな協力・支援を望んでいる。京都市では一般市民が家庭からの油回収に協力してくれており、市民運動としての立ち上がりがある。

### 「買ってはいけない」の著者の船瀬さん

・本日の話を聞いていて大きな怒りを感じた。自分としては「買ってはいけない公団住宅」のような本を書いてやりたい感じた。年間500万人ものCS予備軍を作り出している実態は間接殺人に近い話で、我々はもっと怒らなければならない。

・塩化ビニールが普及した背景には消防法があり、建築基準法では畳をコンクリートにべた打ちすることを認めており、これによって有機リンが住宅に充満してしまう。コンクリートの打ちっぱなしに関しては、それをよしとする建築関係の学者にも責任がある。またマスコミももっと実態と本質を示す責任がある。

会場にはまだまだ発言をお願いしたい人も多く、またさらに議論展開を望む雰囲気もあったが時間の制約のために本セミナーはこれで終わりとなった。

(文責：田中/会員)

## 循環研通信

### 事務局:

〒104-0031 東京都中央区京橋1-9-10  
フォレストタワー

株式会社ノルド 社会環境研究室内

Tel 03 (5524) 7334

Fax 03 (5524) 7332

Email Junkan@nord-ise.com

URL <http://www.nord-ise.com/junkan>

企画編集: 株式会社エス・ピー・アイ

### 循環研セミナーのお知らせ

\* タイトル: 「グリーン購入をめぐる」

\* 講師: グリーンコンシューマー研究会代表 緑川芳樹

\* 日時: 7月16日(月) 18:30~20:30

\* 場所: 労働スクエア 702号会議室

\* 参加費: 会員1000円 非会員1500円

グリーン購入法の制定の背景・経緯から、いろいろな業界や行政における取り組みの実態などについて、その裏話をふくめて興味深いお話がうかがえます。また、他の循環関連法との関係を含め、循環型社会に向けての道筋について、講師を囲んでの意見交換の時間をもつ予定です。

## ワークショップ案内と活動予定

### エコデザインWS

現在「循環(型)社会」なる言葉が様々などころで使われ、そのためのいろいろな活動があらわれてきたために、何が本質なのか、各活動をどのように位置付けるべきか分かりにくくなってきています。そこで、もう一度、背後にある上位の考え方や戦略を良く理解しておくことが重要と認識され、このWSが企画されました。月に1回(2時間程度)の会合を持ち、当日、世話役が用意した関連資料を参考にして自由討議を行います。

第1回および第2回は、5月30日(水)と6月26日(火)にそれぞれ開催され、シム・ヴァンダーリン氏の「エコロジカル・デザイン」や「山本良一氏の「エコデザイン」などをテキストに、各回とも10名以上の参加者で熱い議論がなされました。

第3回は7月25日(水)18:30より、事務局のノルド会議室で開催する予定です。

### 森づくり・棚田WS

当WSは森や棚田に象徴される中山間地域こそが循環型社会の先進空間(モデル)になるのではないかとこの視点から、その可能性を探るものです。現在、中山間地域は過疎化、高齢化によって荒廃する一方で、その地域の持つ様々な資源が、地球環境を守り、新たな社会の構築を促しています。地域とNGOの協働によって既にその方向へ歩み出した地域も少なくありません。当WSでは、森づくりや棚田を通じて中山間地域の現状を見つめ、先進事例を学びつつ具体的現場で提案、活動できるまで成長することを目指します。

#### \* 参考文献

「循環型社会の先進空間 - 新しい日本を示唆する中山間地域」

#### \* 活動予定

< 森づくり >  
・ 下草刈り

7月28日(土)

9月1日(土)

< 棚田 >

・ 棚田の学校

7月18日(水) 棚田の四季

8月4日(土) 棚田に学ぶ子供たち

9月9日(日) 稲刈り(千葉・鴨川)

参加ご希望の方は、事務局にご連絡下さい。

